

神の働きの唯一の水流の中にある祈る召会

聖書：使徒1:13-14. 4:24-31. 6:4. 10:9-16. 12:4-14. 13:1-4.

16:23-26. 22:17-21

- I. 「そこで、わたしは勧めます。何よりもまず、すべての人のために、願いと、祈りと、とりなしと、感謝とをささげなさい。また、王たちや、高い地位にあるすべての人のためにもそうしなさい。それは、わたしたちが十分に敬虔で謹厳であって、平穩で静かな生活をするためです。これは、わたしたちの救い主・神の御前に良いことであり、受け入れられることです」—— I テモテ2:1-3 :
- A. パウロは、神のエコノミーについて語り、テモテに神のエコノミーのために良い戦いを戦うよう命じた後（1:3-4, 18）、祈りの務めが地方召会の行政と牧養のための必要条件であることを示します。
- B. 今日、主の回復において正しい召会生活を持つための必要条件は、祈りの生活を持つことです。正しい召会は、祈る召会です。
- C. 主の回復の中のすべての人は、祈りに満ちていなければならず、祈らない罪に対抗して立たなければなりません——サムエル上12:23。
- D. 召会の長老は、パウロの命令を受け入れて、「何よりもまず」、祈らなければなりません。諸地方召会の中で導いている人は、祈りの生活を持たなければなりません。
- E. もし、わたしたちが自分自身を訓練して、祈りの生活を持つなら、召会は生き生きとし、引き上げられるでしょう。
- F. わたしたちは、あまり多く語るのではなく、またあまり多く働くのでもなく、多く祈るべきです。
- G. わたしたちは一つの事のために徹底的に祈った後、はじめてそれに関して決定すべきです。それは、単独で自分自身によるのではなく、主との一の中で、主の導きにしがたってです。
- H. 「とりなし」のギリシャ語の意味は、個人的に打ち明けるように神に近づくことです。すなわち、神の御前で、他の人の事において、彼らの益のために、調停し、仲裁することです。
- I. 「最近、わたしの活動は、しばらくの間、制限を受けました。それによってわたしは休息し、自分の健康を顧みることができました。わたしは、ある必要について聞いた時、それらのために祈りました。おそらく主は

わたしを制限して、働きよりも祈りのほうがさらに重要であるという事実をわたしに印象づけたのでしょうか。どうかわたしたちがみな、良い召会生活を持つ道が、祈ることであるという学課を学びますように。これは極めて重要です。もしわたしたちの話し合いが祈りに転じるなら、わたしたちの地方の召会は造り変えられるでしょう」——テモテへの第一の手紙ライフスタディ、××ページ。

J. わたしたちは、すべての人のために祈るべきです。なぜなら、わたしたちの救い主・神は、すべての人が救われて、真理の全き知識へ至ることを願っているからです。わたしたちの祈りが、神の願いを実現するために必要とされます—— I テモテ2:4。

K. 「ですから、男たちは怒ったり議論したりすることなく、あらゆる所で聖い手を挙げて祈ることを、わたしは願っています」——8節：

1. 手は、わたしたちの行ないを象徴します：

a. このゆえに、聖い手が象徴するのは、聖い生活、すなわち、敬虔で神に属する生活です。そのような聖い生活は、わたしたちの祈りの生活を強めます。

b. もし、わたしたちの手が聖くなければ、わたしたちの生活は聖くなく、神のためでもありません。そのとき、わたしたちには、祈るための支えとなる力もなく、祈りにおいて挙げるべき手もありません。

2. 怒りと議論は、わたしたちの祈りを殺します：

a. 怒りは、わたしたちの感情から出て来ます。議論は、わたしたちの思いから出て来ます。

b. 祈りの生活を持ち、絶えず祈るために、わたしたちの感情と思いは規制されて、正常な状態にもたらされ、わたしたちの霊の中のその霊の支配を受けなければなりません。

II. 使徒行伝が見せていることは、使徒たちが祈りなしにはどんな働きも開始しなかったということです。彼らは何かを行なおうとしたときはいつも、祈りによって自分自身を停止し、神に道を与え、彼らの中に入ってきていただき、彼らを満たしていただき、彼らの全存在に浸透していただきました——1:13-14. 2:1-4, 16-17前半. 4:24-31. 6:4. 10:9-16. 12:4-14. 13:1-4. 16:23-26. 22:17-21：

A. 天にいるわたしたちの神は、地上の人が神と協力して、神のご計画を完成することを必要とします。主の復活と昇天の後、百二十人の弟子たちは、「上の部屋の献身」をして、一つ思いでひたすら祈り続けることによって神の必要に応じました——1:13-14. 参照、啓3:18。

B. 使徒行伝が見せていることは、わたしたちが神と共に働いて召会を建造することが霊の戦いであることと、祈りが神の働きを完成する秘訣であるということです——4:24-31. 詩2:1-2. エペソ6:10-20。

C. わたしたちが主の御前で告げる祈りは、「相反する祈り」に反対し、抵抗しなければなりません。これらの相反する祈りは、特に召会に対して向けられており、また召会を建造するためにわたしたちが行なっている働きに対しても向けられています——ヨハネ17:15. マタイ6:13. 参照、詩31:20。

III. 使徒行伝には終わりがありません。なぜなら、それが記載しているのは、神の働きの唯一の水流、命の水流であり、この命の水流は依然として流れており、決して止まらないからです——啓22:1, 3. ヨハネ5:17. マタイ25:21 :

A. 聖書が啓示しているのは、流れる三一の神です。すなわち、御父は命の源泉であり、御子は命の泉であり、その霊は命の川です——エレミヤ2:13. 詩36:9前半. ヨハネ4:14. 7:37-39。

B. この流れの源は、神と小羊の御座です——啓22:1。

C. 聖書の中には、ただ一つの流れ、ただ一つの神聖な水流、すなわち、主の働きの唯一の水流があります——I コリント15:58. 16:10. 3:12. 参照、創2:10-14。

D. 使徒行伝が啓示しているのは、主の行動の中にはただ一つの水流があることと、わたしたちが自分自身をこの一つの水流の中に保つ必要があるということです——参照、15:35-41 :

1. 神聖な命の流れは、ペンテコステの日に始まり、すべての世代を通して今日に至るまで流れています、これはただ一つの水流です。

2. 召会の歴史が示しているのは、各世代を通してその霊の一つの水流があり、常に流れているということです。多くの人が、主のために働いています。しかし、すべての人がその一つの水流の流れの中にいたわけではありません。

3. 聖霊の流れの中にある働きは、重荷ではなく、安息です。手順を経て究極的に完成された神が、その霊として、わたしたちの中に生きていて、この働きを行ない、この荷を担うとき、この働きは行なうのが容易であり、この荷は担うのが容易です——マタイ11:28-30. ピリピ3:3. ローマ1:9. I コリント15:10。

4. わたしたちは、わたしたちの内側の主、すなわち、内なる流れに首位を与えることによって、わたしたちの内側の水流の流れを維持しなけ

ればなりません——エゼキエル47:1. コロサイ1:18後半。

5. 今日わたしたちが行なわなければならない事は、聖霊の働きの流れ、水流に従うことです。わたしたちが行なうすべての事は、わたしたちの天然の思想にしたがってではなく、彼の流れにしたがっていません——詩歌(全訳)、650番：
 - a. 「わたしたちは思うままに走るのではなく、主の導きに従います。生ける水が流れる所で、心の中に光を持つようになります」——1節。
 - b. 「自分の選択によって、主の評価を得るではありません。彼の委託を成就してはじめて、彼の称賛を得ることができるのです」——2節。
 - c. 「わたしたちがこのように自己に対して死に、彼と共に天に生きるなら、このようにささげた奉仕において、彼はご自身を褒賞として与えてくださいます」——5節。